

Κ Ο Σ Μ Ο Σ

Vol. 14, No. 3 (No.47)1979. 11. 5

私が最近見た米国とフランスの大学図書館

社会学部教授 井出 翁

今年の6月および8月に私が見学した米国およびフランスの大学図書館の現状を紹介してみる。

6月には米国の連邦政府情報サービス機関、専門調査図書館、大学図書館などを2週間にわたり訪問し、その活動状況を視察した。大学図書館はカリフォルニア工科大学ミリカン記念図書館、マサチューセッツ工科大学パーカー工学図書館、ハーバード大学ビジネス・スクール・パーカー図書館などを中心に見た。



見学の際、私は次の事柄に焦点を絞った。①情報サービス活動において先駆的役割りを果している米国の図書館が、データ・ベースをどのように利用しているか、②それに関連するサービスおよび付随サービスをどのように行ない利用者の要求に応じているか、ということに関し、文献で得られている以上の情報を得るために自分の目で確かめ、直接に肌で感じてみることである。

それというのは、学術審議会が最近、学術情報システムの具体化構想を公にした。¹⁾ そのシステムは、わが国の学術研究をより促進させるため、各種データ・ベースを整備し、通信回線を通じ全国的規模で研究者が必要とする情報を容易に入手できるようにすることを目的として作られている。そのシステム機能を発揮させるには、大学図書館の活動を従来より更に拡大充実させることが必要条件の一つとしてあげられている。なかでも、①オンライン情報検索²⁾ サービスにおける図書館員が果たす役割り、そのあり方およびそれに関する教育訓練の方法、更にそれに続く②検索された二次情報に基づく一次資料の効果的提供システム、③それら新規サービス活動と従来サービス活動の関連づけおよび両者の整合をどうするかが問題になる。それら問題は近い将来、わが国の大学図書館が当然に当面する問題でもあるので、米国ではそれにどのように対応したかを知り、わが国における対応策を考える参考にしたかったからである。

特集・海外の
大学図書館事情 1

ぶらざ・で・りぶろ
御存知ですか?!
出版社PR誌のイ
ロイロ 5

書誌の御案内 6

各館だより 7

館内だより 8

編集後記 8

特集

海外の大学図書館事情

アメリカーフランスーカナダから

訪問した各大学図書館における共通点を挙げると、まず図書館コレクションが充実しているということである。図書に限らず各種資料が収集整理されている。その核になるレファレンスコレクションは全般的に



収集され、特に書誌、索引誌、抄録誌、総説などの二次資料類は予想以上に整っていた。そしてレファレンス・サービスが活発に行われ、教員、学生および学部者へのサービスが徹底している。そしてレファレンス・ルームには端末装置³⁾が置かれ、担当の館員が常時、各種データ・ベースからオンライン情報検索を行い利用者からの要求に応じていた。研究者自身が直接に検索する姿は、二次資料類を使う場合には見られたが、端末を自分で操作して二次情報データ・ベースから検索する姿は見られなかった。研究者の要求を聴いて館員が検索するというのが普通のようにある。収集した資料を一日も早く利用者が使えるよう整理するため整理業務でも書誌的データ・ベースを盛んに使っていた。私が見学した図書館は、大学図書館に限らずどの図書館でもデータ・ベースを極く自然に使いこなしていた。

館員に対するデータ・ベース利用に関する教育は常時行われ、研究者も希望すれば、それに参加できるとのことであった。

検索結果に基づく一次資料の提供は要求に応じて多様化されている。利用者がハード・コピーで求めればハード・コピーで、オリジナルがマイクロ化されているものは、マイクロ形式のコピーを求めればマイクロ形式で提供するというように大変きめが細かいサービスを行っている。

米国においては大学図書館が本当に大学における教育研究の中心の場になっていることは、その立地環境、施設設備、蔵書数、予算額、館員の教育訓練、そして利用者の情報需要における図書館への依存の度合などからみてよくわかる。彼我の

格差を改めて痛感した。

夏休みには南フランスを旅行したのでモンペリエ大学を訪れてみた。フランソワ・ラブレーが学んだ医学部はヨーロッパでは有名で、その図書館のコレクションも名が通っているのは是非見たかったが夏休みのため残念乍ら見学できなかった。理学部図書館が見学できた。米国の大学図書館を見たばかりであったので、蔵書の充実度、レファレンス・サービスの水準もコンピュータ利用についても米国にくらべ大分遅れていることがはっきりとわかった。わが国の平均的大学図書館の現状と似ているように思えた。コンピュータ利用は図書館では行われず、構内の電算センターが端末装置を使い研究者から依頼された数値データをモンペリエ市の中央処理装置へ送り処理していた。

カナダの大学図書館を見学して

工学部分館 中村 準一

(1) トロント大学は芝生と植込みに囲まれた広大な地域に、市の一部分を占有して建っていた。幾十もある建物の中で、僕は Science & Medicine Library という一分館を訪れた。

図書館に一步入ると、鉄の柵があって、一人ずつしか通過できないような入口と出口とが別々についており、そばで中年の男性が見張っていた。出口には磁気警報装置があって、図書館の本を無断で持って出られないようになっていた。僕が見た限りではカナダの大学図書館の出入口はみなこのようになっていたのだ。

館長代理の Miss Bradley に面会を申し込むと、前もって手紙と電話で訪問の約束をとってあったので、すぐ通された。彼女は一通りの挨拶をすますと Miss N. Yong という若い館員をつけて案内させてくれた。彼女は丁寧に説明しながら図書館の中を歩いてくれた。館員数60名。館内にいたのは20名ぐらいだったから、あとは夏期休暇でもとっているのだろう。だがあとで閲覧時間の長いのを見て成程と思った。念のために書いてお

特集

海外の大学図書館事情

アメリカ～フランス～カナダから

く。

月一金曜 午前8時30分—午後10時30分
土曜 午前9時—午後5時
日曜 午後1時—午後6時

これは夏休み中でも変わっていなかった。出納台のそばに7台のマクロリーダーがあった。それは図書目録だった。マイクロフィルムに目録がぎっしりとコピーされていて、閲覧者はボタン操作で自由に検索できるようになっている。中身はコンピューターで印刷された著者、書名、件名の目録だった。その目録はその分館だけのものではなく、トロント大学の全図書館の目録だった。この小さな分館に総合目録が置かれていたのだ。もしこれがカード目録だったら、どんなに広いスペースを必要とすることだろう。また、ファイルや検索のためにどれほどの手間がかかることだろう。

あとで John P. Robert Research Library という中央図書館を訪れたが、そこでは数か所に同じセットのマクロリーダーが置かれていた。

(2) York 大学はトロント郊外の平原にそそり建っていた。館長の Mrs. Anne Woodsworth は魅力あふれる知的女性で若々しかった。蔵書数170万。館員200名、そのうち Librarian は36名である。Librarian の資格は図書館の修士をとった者で、他の館員は高卒の上2年の図書館コースをとっている。こんどは Miss J. Carruthers というレファレンスの主任 Librarian に案内されて館内をまわった。参考室、地図室、視聴覚室、そして大小幾つかの閲覧室等はどこでも読書するのに最適と思われる配置がなされていた。

ここでも目録はコンピューターに入っていて、マクロリーダーにセットされていた。事務室の目録係の女性達が忙しそうに目録をタイプしていたが、よく見ると、それらは端末機であって、作った目録はそのままコンピューターに入るようになっていた。案内係は一つの端末機を指さして言った「ここで目録がすでに入っているかどうかチェックするのです。もし目録に誤りがあったら訂正もします。」

僕は一人一人の館員達が自信をもって働いていることを深く感じとった。専門職という誇りが彼らを支えているのだと思う。歩きながら案内係に尋ねた。「この図書館員がこの大学の他の部局に移ることは可能ですか。」彼女はきっぱりと答えた。「いいえ、それはできません。この図書館で働くか、ここを止めるかです。」厳しいな、と思う。これも専門職のもつ厳しさだろう。

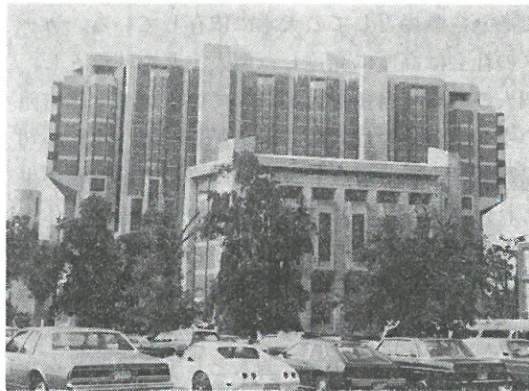
図書館業務の事務的な面は次々とコンピューター化され、合理化されていくが、閲覧者へのサービスは手を抜かれていない。要所要所に館員がいて学生達の相談に応じていた。

(3) トロントから飛行機で4時間、Calgary 大学では見学の予約をとってなかったが、申し出ると、Mrs. M. Davey という館員をつけてくれた。蔵書数200万。館員数250。学生数1万。

ここでは貸出リストがあった。貸出されている本の書名、著者名、請求記号、借り出している者の氏名が印刷され、厚い冊子になっていた。毎日新しく作るということだった。

ロッキー山脈をこえ Vancouver の British Columbia 大学に来たが、ここでも貸出リストがあったが、マクロリーダーに入っていて、毎日新しく作っていた。図書目録もリーダーに入っていたが、こちらの方は2ヶ月に1度作るということだった。

(4) 全体として。すべての図書館に共通していたことは閲覧時間が長いことだった。学生が図書



トロント大学中央図書館

特集

海外の大学図書館事情

アメリカ—フランス—カナダから

集

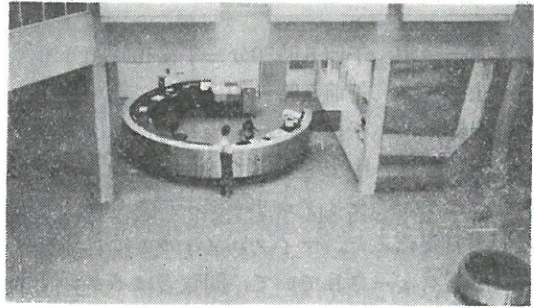
館に依存する割合は日本よりずっと高い。それは図書館のサービス向上へとつながっていくのである。各図書館では閲覧やレファレンスにかなりの力を注いでいた。Calgary 大学では一人の貸出冊数25冊。一冊の期限2週間。更新手続も電話でOKだった。

コンピューター化は想像以上に進んでいた。カナダ全国の大学図書館の目録がコンピューターに入り、それらがオンラインで結ばれたら、その利益は計り知れないものとなるであろう。

図書館の建物は全体の構造も細部も、図書館ならではの細心の工夫をこらしたデザインをもっていた。絵画や彫刻が単なる飾りとしてではなく、建物の本質的な一部として存在していたが、僕はこの点でも認識を新たにすることができた。

カナダの図書館と日本の図書館との違いは余りにも大きく、ただスケールの大きさとか人数の多さだけではなく、もっと根本的なものがあるように思われた。文化的伝統の違い、社会制度の違い、大学の機構の違い、そして根本的には、人間存在についての考え方の違いが図書館の違いに反映していた。それが、一学部にも匹敵するほどの自由と責任をもったカナダの図書館と、事務管理機構の一部に組込まれた日本の図書館の違いであった。

カナダの Librarian は独立した専門職であり、専門職としての自己の能力と責任とを武器としているのに対して、日本の図書館員は単なる事務員であり、職場としての大学に依存している。カナダの社会は高度に発達した個人主義を基盤とし、個人の尊厳と自由を大切にしているので、図書館の中でも個人の仕事に明確さが貫かれ、それが司書職制度となって現われ、図書館の独自性が生まれたのである。日本の社会は家族主義の全体主義を基盤としており、個人の存在はぼかされているので、図書館自体も個性を失い、職制という一般的な管理職制度（それは他の課にも共通した同じもの）をもち、従って個人としての専門職を作る機会を失っているのである。



ヨーク大学図書館カウンター

大学の性格については、カナダの学生達は研究者への道を歩む自由人と見なされているから、自主的に学習することを求められ、従って図書館を利用することは重要不可欠の主食となっているのに対し、日本の学生達は単なる聴講者のな受け身の要素が強い。従って図書館利用はおやつにしか過ぎないようにである。これが図書館の働きにも影響していることは確かである。

人間存在の受けとめ方の違いをいえば、自我の存在を追究した西洋文化の中で、どこまでも自己自身であろうとする西洋人と、無を追究した東洋文化の中で、どこまでも没自我であらんとする日本人との違いがここに見られるのだろうか。そして更に文化的伝統の違いについては、キリスト教によって培われた文化と、一貫してキリスト教を拒否し続けた日本文化との違いがここにあらわれているのだろうか。と考えざるを得なかった次第である。

〔注〕

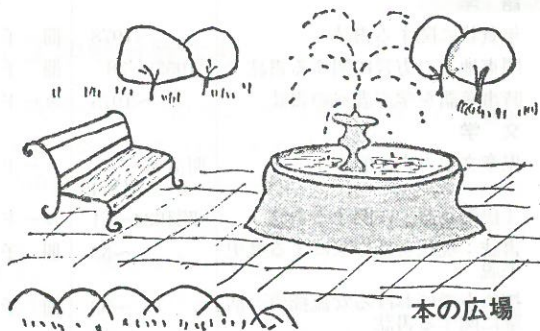
- 1) 『今後における学術情報システムの在り方について(中間報告)』, 学術審議会, 昭和54年6月。——白山・朝霞あり。カウンターで御請求下さい。——
・学術審議会。“今後における学術情報システムの在り方について(中間報告)”, 学術月報, 32(5), 1979, 8, P.31—57。——白山, 朝霞, 工学部共あり——
- 2) 情報検索「情報をあらかじめ整理, 蓄積しておき, それを後刻必要に応じて取り出す技術の体系」坂本徹朗: 情報検索(日本図書館学講座第9巻), P.21(雄山閣, 1976)
- 3) 端末装置「利用者がコンピュータに対して種々の指令を出したり, コンピュータからのいろいろな情報を受けるときなど, コンピュータと人間が対話するために必要な装置」橋本昌幸: 情報検索のABC, P.169(日本放送出版協会, 昭和46)

特集

海外の大学図書館事情

アメリカ～フランス～カナダから

ふらぎ でりぶろ



様々なところで「読書論」や「読書術」などが話題に上げられるようになったので、出版社『PR誌』なるものの存在を知る人も多いことと思う。『PR誌』とは、出版社がその出版姿勢や出版物を色々な角度から読者に知らせるための手段と云えよう。しかし、その内容は出版社の特徴によって、総合的、文芸的、趣味的、専門的などの傾向を持つ。また、どの読者層に的をしぼっているかによって、軽い読みものから専門的な論文までその内容は様々である。内容に比較して安価であること、中には無料のものもあることも、特徴の一つとしてあげておく必要がある。次に、そのいくつかを簡単に紹介しよう。

■『学燈』（丸善・月刊・総合）明治30年に丸善が洋書購読者のために発行した日本最初の出版PR誌である。内容はほとんど研究者によるエッセーで、巻末には洋書と洋雑誌の書評が数篇掲載されている。

■『図書』（岩波書店・月刊・総合）発行部数は30数万部で、商業誌に劣らぬ読者がいる。「読書家」と云われる人たちを対象にしているらしく、本や読書に関する記事が多い。「岩波文化講演」などの講演録がこれにときどき掲載される。

■『未来』（未来社・月刊・総合）PR臭の少ないPR誌といえる。中国、朝鮮、戦争などの問題を取り上げることが多い。未来社社長西谷能雄が10年以上連載している「思うこと」は、出版界の問題を指摘し続けてきたもので、『みすず』（みすず書房）の「朱筆」とともに最近話題となっている出版問題の先鞭をきった。

■『月刊百科』（平凡社・月刊・総合）出版社名と誌名から受ける印象から百科事典のイメージが強いのだが、中身は軽い読みものからやや高度なものまでと幅広い。読みもの以外に、ひと月の出来事を追う「365

日の百科」や読んで字のごとし「街の発見現代事物起源」はユニークな内容である。また、毎月その号の重要な言葉が索引化され、1年ごとに累積される。これらを掲載することによって「月刊百科事典」をねらっているのだろう。

■『皮』（新潮社・月刊・文芸）随筆、コラム、連載小説、書評など総じて文芸的色彩が強い。自社の刊行案内には毎月、『新潮』、『小説新潮』、『藝術新潮』の各編集長による各誌の案内がのる。

■『アクセス』（地方・小出版流通センター・月刊・地方・小出版）このセンターができた背景を受けて、1面（冊子状ではなくタブロイド版の新聞）では出版流通問題が取り上げられることが多い。他面はほとんど地方・小出版物の紹介に当てている。

■『書斎の窓』（有斐閣・月刊・社会科学）社会科学の研究動向や著者近況などが主な内容だが文学など他の分野のものもある。「学会誌紹介」というコーナーがあって、社会科学関係学会誌の目次が紹介されている。

■『社会科学の方法』（お茶の水書房・月刊・社会科学）学術出版社のPR誌らしく、専門的内容である。掲載された論文をめぐる、論争が交されるのは、このPR誌ぐらいだろう。

■『レポート笠間』（笠間書房・季刊・日本文学）毎月、日本文学の古典を特定テーマにしぼって、2-3篇の解説がのる。内容は専門的といえる。

■『不死鳥』（南雲堂・年4回・英米文学）英米文学を紹介することを目的としている。文学作品、文学者についての解説が多い。対象は学生、研究者といえる。

■『蟻塔』（共立出版・月刊・科学技術）、『OHM』（オーム社・季刊・科学技術）両誌とも科学技術についてわかりやすく書かれた内容のものが多い。一般の人たちでも興味を持って読める。

■『窓』（ナウカ・季刊・ソ連関係）ソ連に関することなら文化、社会、経済、歴史から趣味に至るまで幅広く掲載される。巻末にソ連出版物の書評がのる。

■『Brunnen』（郁文堂・年10回・ドイツ文学、紀行）ほとんどがドイツ語、文学関係書物の案内（リストのみ）に当てられているが、文学や紀行などに関する軽いエッセーも取められている。

（閲覧係・神林）

※ 尚、詳しい所蔵状況等は、添付のリストを御覧下さい。

御存知ですか？ 出版社PR誌のイロイロ

	NO	誌名	発行所	創刊年	頻度	記事の内容
あ	1	あおき	青木書店	1971.9 (休刊中)		
	2	アクセス	地方小出版流通センター	1976.8	月刊	地方小出版物の紹介
え	3	朝日出版通信	朝日新聞社	(廃刊)	隔月刊	総合PR誌
	4	アルピニスト	あかね書房	1976~1977.10 (廃刊)	年3回位	山岳関係
えお	5	英語の窓	中教出版	1955.6	月刊	現場の人の実践、意見、論文 大学教授からの現場に対するサービス
	6	OHM Bulletin	オーム社	1965.9	季刊	理工学関係、自社出版物
か	7	音楽の窓	音楽之友社	1969	月刊	音楽関係者による随筆、雑感 <small>(1,2,3)</small>
	8	海・燕	海燕書房	1973	年2~4回	小論文、出版目録
き	9	科学サロン	東海大学出版会	1977.5	季刊	科学と技術を考える小冊子
	10	学燈	丸善	1977.3	月刊	総合、洋書の紹介など
く	11	きょうどう	協同出版	1971.春 (休刊中)	季刊	教育関係、討論記事、対談など
	12	蟻塔	共立出版	1955	月刊	科学と随想、紀行文執筆者中心のトピックス
け	13	くうりえ	美術図書出版協会	1978.4	季刊	美術関係、新刊近刊案内
	14	月刊ハミング	全音楽譜出版	1975.1	月刊	音楽関係、作曲家による対談
こ	15	月刊百科	平凡社	1962.9	月刊	百科事典のアフターサービス的月刊
	16	古典と近代文学	有精堂出版	1967.10 (休刊中)	不定期	国文学関係、特集形式
さ	17	こどもの本	日本児童図書出版協会	1975.10	月刊	新刊情報、民話、作家インタビュー
	18	さ・え・ら	さえら書房	1966.5	月刊	新刊案内、児童文学関係
し	19	さんいち	三一書房	1974.11	季刊	著者のエッセイ、短かい読み物、おもしろ本
	20	さんりくのほん	NSK地方出版社	1977.6	不定期	本の紹介、随筆、出版案内
せ	21	社会科学の方法	御茶の水書房	1968	月刊	社会科学関係一般、論文
	22	出版ダイジェスト	梓会	1949.8	旬刊	各社の出版目録、(新刊)
そ	23	春秋	春秋社	1959.6	月刊	総合、エッセイなど
	24	書齋の窓	有斐閣	1953.6	月刊	社会科学、特に法律
そ	25	書窓	東洋経済新報社	1971.8~1977.10 (廃刊)		経済・経営関係者による随筆
	26	書店はんじょう	中央公論社	(廃刊)	月刊	書店向け記事
そ	27	新刊展望	日本出版販売	1957.9	月刊	文芸、新刊紹介、創刊雑誌紹介
	28	新刊ニュース	東京出版販売	1949	月刊	文芸、新刊紹介、ベストセラー紹介
そ	29	新教	新教出版	1974頃	季刊	PR主体、世界のキリスト教思想の動向
	30	新風	書店新風会	1958頃	月刊	書店の経営研究、親睦
せそ	31	人文会ニュース	人文会	1973	季刊	業界内部関係、販売体験談
	32	じっぴ	実業之日本社	1970	月刊	経済時評、特集、新刊案内、出版関係
せそ	33	青春と読書	集英社	1969	隔月刊	総合、随筆、対談など
	34	創文	創文社	1962.8	月刊	随想、書評、学術小論文、出版物

R 誌 リスト

東洋大学図書館 = ュース KOSMOS Vol. 14, No. 3 (通巻47) 付録

140.

対象者	所 属			購読料	住 居 所		TEL
	白 山	ア ン	工 学 部		千 代 田	世 光	
					101	千代田区神田神保町1-60	03 (292)0481
一般読者		○		年 ¥1,000	101	千代田区神田小川町3-14 萬水ビル	03 (291)8474~5
一般読者							
山岳関係者				年 ¥900	101	千代田区西神田2-3-16	03 (263)1351
中学校英語教師				④ ¥25	101	千代田区神田錦町3-1	03 (291)0911~5
大学教授		○		年 ¥300	162	新宿区神楽坂6-30	03 (268)6151
大学院生図書館				④ ¥100 送料 ¥60	101	千代田区内神田1-4-6 三洋ビル	03 (293)9931
工業高校教師		○		年 ¥200	160	新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル	03 (356)1541
一般読者	○	○	○	年 ¥1,200	103	中央区日本橋通2-3-10	03 (272)7211
一般読者					101	千代田区神田錦町2-5	03 (291)0758
書店		○	○	2年 ¥480	112	文京区小日向4-6-19	03 (747)2511
美術書愛好家				(店頭配布)	150	渋谷区神南1-10-6 第一ビル (東出版内)	03 (462)5646
音楽関係者				年 ¥450	162	新宿区東五軒町25	03 (269)0121
会員のみ	○	○	○	年 ¥500	102	千代田区回番町4-1	03 (265)0451
研究者	○				101	千代田区神田神保町1-39	03 (291)1521~3
一般読者				年 ¥1,200	102	千代田区飯田橋2-12-7 文京商ビル	03 (264)4871
児童団体関係				年 ¥150	162	新宿区市ヶ谷砂土原町3-1	03 (268)4261
一般読者	○			(無料配布)	101	千代田区神田駿河台2-9	03 (291)1311~7
一般読者				(書籍購入者 に送料配布)	988	宮城県気仙沼市内の脇2-28-2	02262 (3) 0862
一般読者	○	○	○	年 ¥600	101	千代田区神田神保町2-36	03 (265)5746
書店	○			年 ¥1,000	101	千代田区神田小川町1-10 保坂ビル	03 (255)0008
公共図書館	○	○		年 ¥400	101	千代田区外神田2-18-6	03 (255)9611
放養ある一般人	○	○	○	年 ¥360	101	千代田区神田神保町2-17	03 (264)1311
大学の学生教授							
一般読者	○						
書店				年 ¥1,500	101	千代田区神田駿河台4-3	03 (293)2111
一般読者				④ ¥100 送料 ¥29	162	新宿区東五軒町53	03 (269)6111
書店得意先	○			年 ¥800	162	新宿区新小川町3-1	03 (260)6148
一般読者				(関係者のみ)	162	新宿区矢来町109	03 (260)2912
書店				(非買品)	1131	文京区本郷郵便局私書箱89号	03 (814)0131
企業書店関係				(業界関係のみ)	104	中央区銀座1-3-9	03 (562)4311
書店				(店頭配布)	101	千代田区一ツ橋2-5-10	03 (230)6111
書店取次店	○	○	○	年 ¥360	102	千代田区一番町17-3	03 (263)7101
一般読者	○	○	○				
大學生、大学院生	○	○	○				
研究者	○	○	○				

	No	誌名	発行所	創刊年	頻度	記事の内容
ち	35	小さな図書館	あかね書房	1967~ (月刊)	季刊	子どもの本の特集(大人向)
	36	ちくま	筑摩書房	1969.4 (月刊中)	月刊	商業的でない趣味的、口個人刊
	37	東方	東方書店	1975.9	季刊	中国関係の論文・文化系
	38	同朋	同朋舎	1978	月刊	執筆者による軽い読み物
と	39	図書	岩波書店	1938.8	月刊	総合、対談、軽い読み物、新
	40	波	新潮社	1967.1	月刊	対談、コラム、書評、刊行
	41	日本出版貿易ニュース	日本出版貿易	1973~1972.6 (月刊)	月刊	新刊近刊・ベストセラー・雑貨品の
	42	はぐるま	日刊工業新聞社		月刊	主体は工学・エンジニアリング
な	43	ぱれるか	評論社	昭和30年代	月刊	総合、エッセイ、小論文な
	44	美	美術出版	1964~ (月刊)	季刊	美術に関するエッセイなど
	45	評論時経新論社	日本経済評論社	1976.12	月刊	経済関係、随想、特集など
	46	風景	悠々会	1960~1976 (月刊)	月刊	随筆、エッセイ、短篇小説
には	47	不死鳥	南雲堂	1953.3	年2回	英語、英米文学関係
	48	ぶっくまん	研究社	1965.9 (月刊中)	月刊	英文・英語関係、著者のエッセイ、本の周
	49	ぶっくれと	三省堂	1976.10	季刊	自社出版物の紹介、新刊近刊
	50	Brunnen	郁文堂	1950	年10回	ドイツ文学、ドイツ旅行関
ひ	51	米書だより	米大使館広報文化局	1971.4 (月刊)	月刊	アメリカ文化・出版物の紹介
	52	法苑	新日本法規出版	1970.10	不定期	執筆者の随筆、読者との一問一答書
	53	鵬和出版ニュース	鵬和出版	1977.12	年1~2回	自社出版物の書評、書店の
	54	ほるぶ図書新聞	ほるぶ	1968.6	旬刊	ブックレビュー、本の紹介
ふ	55	本	講談社	1976.2	月刊	総合、文芸的、現代の話題、小
	56	本	雄松堂	1970	年刊	外国向け国内出版物・特殊図書
	57	本のひろば	キリスト教書センター	1959頃	月刊	キリスト教関係の書評
	58	本の窓	小学館	1978初春	季刊	自社出版物の紹介、各界有名人の
ふ	59	窓	ナウカ	1972	季刊	ソ連・スラブ圏の文化紹介
	60	窓	山と溪谷社	1965~1976.1 (月刊)	年刊	総合出版案内、エッセイ
	61	みすず	みすず書房	1959.4	月刊	随想、海外文化紹介、新刊
	62	未来	未来社	1964.5	月刊	総合、随想、紀行文など
め	63	名著通信	名著普及会	1976.10~1978.12 (月刊中)	月刊	書物情報誌、学術出版物の紹
	64	武蔵野文学	武蔵野書院	1965	年刊	国文学関係の論文の特集、図
	65	U P	東京大学出版会	1972.11	月刊	随想、紀行文、学術出版案内
	66	レポート笠間	笠間書院	1971.12	年2~3回	国文学関係、小論文、総合目
り	67	龍溪	龍溪書舎	1972.2	月刊	中国・アジア関係の論文
	68	World	TBSブリタニカ	1973.1~ (月刊)	隔月刊	総合、対談など

S.54.10.29作成 雑誌係

	対象者	PR			購読料	〒	住所	TEL
		白山	アサヒ	工務部				
1)	一般読者							
「傑」	一般読者	○	○			101	千代田区神田小川町2-8	03 (291)7651
「介」	一般読者				年 ¥200	101	千代田区神田神保町1-3	03 (294)1001
	一般読者	○			年 ¥240	600	京都市下京区中堂寺鎌田町2	075 (361)9121
「案内」	一般読者	○	○	○	年 ¥200 (店頭配布別)	101	千代田区一ツ橋2-5-5	03 (265)4111
「内など」	一般読者	○	○		年 ¥500 (店頭配布別)	162	新宿区矢来町71	03 (266)5110
「紹介」	海外の日本語 日本語関係団体							
「関係」	工業高校出者				② ¥300	102	千代田区九段北1-8-10	03 (263)2311
	一般読者	○		○	④ ¥50	101	千代田区神田神保町2-16	03 (265)1961
	一般読者					162	新宿区市谷本村町15	03 (260)2151
	大学図書館 書店				年 ¥1500	101	千代田区神田神保町3-2 高橋ビル	03 (230)1661
「など」	一般読者	○						
	大学放校(英語)	○	○		② ¥200	162	新宿区山吹町201	03 (268)2311
「四にハ」	一般読者	○				162	新宿区神楽坂1-2	03 (269)4521
「案内」	書店	○	○	○	年 ¥300	101	千代田区神田神保町1-1	03 (293)3441
「系」	ゲルマニスト	○	○	○	年 ¥1000	113	文京区本郷5-30-21	03 (814)5571
	一般読者							
「籍PR」	一般読者				(資料購入)	162	新宿区市谷砂土原町2-6	03 (269)2220
「問題」	一般読者				(無料配布)	152	目黒区八雲5-10-1-201	03 (717)4336
「新聞」	一般読者	○			年 ¥2,000	160	新宿区新宿2-19-13カゼンビル	03 (354)7031
「説など」	一般読者		○		年 ¥600 (店頭配布別)	112	文京区音羽2-12-21	03 (445)1111
「紹介」	大学図書館 研究書	○			無料配布	160	新宿区三栄町29	03 (357)1411
	アプロテクト				年 ¥500	162	新宿区新小川町3-1キリスト教文芸会館	03 (260)6520
「丸筆など」	一般読者				(店頭配布)	101	千代田区一ツ橋2-3-1	03 (230)5211
	一般読者	○	○		年 ¥400	171	豊島区南池袋2-30-19	03 (981)5261
「と」	一般読者							
「内など」	一般読者	○	○	○	年 ¥1,200	113	文京区本郷3-17-15	03 (814)0131
	一般読者	○	○	○	年 ¥200 (店頭配布別)	112	文京区小石川3-7-2	03 (814)5521-4
「介など」	研究者	○				106	港区麻布十番2-13メゾネット7ジ	03 (724)8031
「目録」	大学図書館 大学院生 大学放校	○			無料配布	101	千代田区神田錦町3-11	03 (291)4859
「1など」	一般読者	○	○	○	年 ¥500	113	文京区本郷7-3-1 東京大学構内	03 (811)4281
「録」	研究者	○	○		無料配布	101	千代田区神田神保町1-46	03 (295)1331
	研究者	○	○		年 ¥2,000	112	文京区千石4-22-15	03 (943)4445
	百科典講							

図書館学専攻生作成 書誌の御案内

—その2—

前号では、図書館・出版、歴史・伝記・地誌、社会学に関する書誌を紹介いたしました。引き続き文学、芸術などの書誌の一覧を掲載します。

どうぞ、御利用下さい。

標 題	収録期間	備考
哲学・宗教		
ヴェダanta哲学及びウパニシャットに関する書誌	昭和40～51	冊 子
山岳信仰に関する書誌	1945～ 1978.10	冊 子
ギリシャ神話（ギリシャ美術との比較）		カード
日本の仏像に関する書誌	1960～1975	カード
聖書の注（註）解書に関する書誌	1946～1975	カード
芸術		
日本の文化財—寺院建築と仏像彫刻	昭和47.4～ 50.11	カード
白馬会およびその会員に関する書誌	1945～1977	冊 子
書誌：ガラス工芸	昭和30～53	冊 子
越後縮に関する書誌	江戸時代～53	冊 子
友禅に関する書誌	昭和30～52	冊 子
玩具に関する書誌	1901～1978	カード
音楽・演劇		
音楽心理学に関する書誌	主として戦後 ～53	冊 子
ブラック・ミュージックに関する書誌	1960～1978	冊 子
打楽器に関する書誌	昭和30～50	カード
ジャズに関する書誌	1960～1976	カード
アメリカから日本においてのフォークソングの流れ	1963～1975	カード
佐渡おけさに関する書誌	1929～1977	冊 子
箏・琴に関する書誌	～53	冊 子
戦後歌舞伎に関する書誌	昭和20～50	カード
人形浄瑠璃に関する書誌	昭和20～50	カード
落語に関する書誌	昭和30～51	カード
マジックに関する書誌	昭和20～51	カード
スポーツ		
ラクビー史	1973～1975	カード
ゴルフに関する書誌	1960～1975	カード
野外旅行活動—ユースホステルを中心に—	1946～1975	カード
日本人の山岳活動に関する書誌	1970～1975年 前期	カード
アユ釣りに関する書誌	昭和20～53	冊 子
つりに関する書誌的ガイド	1974～1976	カード

標 題	収録期間	備考
語 学		
年賀状に関する書誌	～1978	冊 子
関東地方の方言に関する書誌	1955～'78	冊 子
時事英語を学ぶ者への書誌	～1975	カード
文 学		
児童文学の書誌的ガイド	明治元～ 昭和49	カード
「伊勢物語」に関する書誌	昭和34～51	カード
書誌：現代女性作家による歴史小説	～53	冊 子
探偵小説における女流探偵の活躍に関する書誌	～53	冊 子
個人書誌		
個人書誌：有吉佐和子	昭和31～50	カード
J. S. バッハに関する個人書誌	1925～1975	カード
個人書誌：Josef Anton Bruckner	1824～1977	カード
個人書誌：Agatha Christie	1920～1977	カード
個人書誌：太宰治	昭和11～50	カード
日本におけるデュルケームに関する書誌	1957～1974	カード
ロバート・フロストに関する書誌	1927～1976	冊 子
書誌：倉田百三	昭和20～53	冊 子
黒沢明に関する書誌	～1977	カード
個人書誌：宮沢賢治	昭和14～50	カード
個人書誌：エドワード・ムンク	1951～1974	カード
個人書誌：中勘助	明治末～現代	冊 子
個人書誌：中井英夫	1962～ 1977.11	カード
個人書誌：織田作之助	昭和15～50	カード
良寛研究文献目録	大正初～ 昭和53	カード
良寛に関する書誌	昭和20～53	冊 子
個人書誌：立原道造	昭和9～52.12	冊 子
その他		
ネコに関する書誌	1945～1978	冊 子
公害（主に大気汚染）	1961～1975.8	カード
天然繊維に関する書誌—その織と染		カード
服装史からみた十二単に関する書誌	1950～1978	冊 子
日本の髪型に関する書誌	昭和20～53.9	冊 子
日本の過疎問題に関する書誌	昭和41.1～ 50.3	カード
庭づくりに関する書誌	昭和30～53	冊 子
広告に関する書誌		カード
東京周辺の陸水運輸に関する書誌	昭和47.4～ 50.11	カード

（8ページの図へ続く）

各館だより

工学部分館より

今回は七名の館員より近況報告を兼ねた一言メッセージをお送り致します。

中村 この夏は外国旅行をして、語学力の足りなさを痛感した。学生になった積りで勉強しよう。

岩田 夏休みは親子と密接な関係をもてるよい機会なので、体を鍛えるため大いに努力したと思う。

小笠原 燈火親しむ季節、この機会に、専門書以外の本を、じっくり読んでみては…。

藤野 このほど閲覧室に新刊図書コーナーを設けました。入口右側です。御一見下さい。

伊藤 新刊本を早くみなさんの手元へと、只今奮闘中、この本たちをどんどん利用して下さい!!

田辺 工学部では、夏休みに書架が一台増え、窮屈だった本にもほんの少しゆとりが出来ました。

原口 [産休中]

白山より

—辞書体・分類目録の

利用案内について—

大学において学術研究、学習のための主要な資料入手どころは図書館です。そのために、利用者が資料を十分活用してもらえるように館員が日々努力していますが、今日情報量の増加、専門分野の細分化などによって館員だけの努力だけでは利用者へのサービスも自ら限界があります。そこで最近図書館では、利用者自身が資料を検索できるための基本的事項(例えば、分類目録、辞書体目録のしくみなど)をガイダンスする必要性を感じております。この基本的事項を習熟することによって必要な資料を確実に収集出来るようになると考え、そのために図書館では、今年4月9日から昭和55年2月13日までの毎週月曜日～金曜日(午後3時～午後4時)図書館2階辞書体目録コーナーに於て主に辞書体目録、分類目録の利用案内をしております。その他図書館利用に関する事ならなんでもお尋ね下さい。

朝霞分館より

視聴覚ライブラリーが開設されています!

前号の各館だよりで「朝霞分館に視聴覚ライブラリーを考えています」と書きました。あれから3ヶ月、本号では「視聴覚ライブラリーを開設しています」とタイトルすることになりました。ご承知のとおり白山には立派な視聴覚室があり、毎日多彩な催し物が行われています。しかし、開館3年目の朝霞分館には残念ながらまだこの施設はありません。それなのに「開設されています」というのはなぜでしょうか……。じつは、6月下旬に視聴覚催し物第1回と銘打ってスライド映写会を行いました。1ヶ月前よりポスター・チラシを作って宣伝に入り、実施しましたところ、視聴者20余名という大盛況でした。同時にアンケートを書いてもらおうと、これが気味が悪いくらい良い事ばかり、この視聴者の言葉に励まされて、夏休み明けの9月下旬に第2回の催し物16%音楽

映画会を開催し盛況に終わりました。教室を利用し暗幕もなく黒紙をガラスに張りつけた急造の会場で、機材も教学課よりの借り物という状態ですが確実に、視聴者に期待されているという事がひしひしと感じとれます。設備・資料等はありませんが、これからも毎月1回は開催し、徐々に定期的な催し物として、白山のように多彩なプログラムでパンフレットも発行できるようにして行きたいと考えています。また、語学教養のために、語学テープを百種類余り購入し、近日中に貸し出しが出来るように整備を進めています。将来は、視聴覚室をと考えていますが、すぐには実現不可能です。しかし、レコードをはじめ視聴覚関係資料の収集ははじまっています。このように、小さな図書館朝霞分館にもすでに視聴覚ライブラリーは開設されているのです。(矢野)

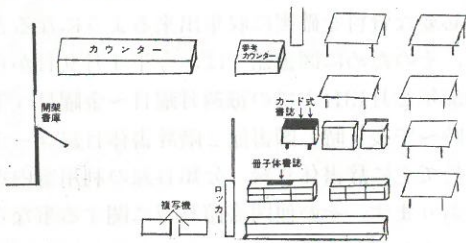
展示雑誌（参考雑誌室・白山）の探し方

現在、新刊雑誌 268 誌と本学紀要類 19 誌を、参考雑誌室に展示しています。展示書架には前面のフタに最新号が、その奥の箱に約 2 ヶ月分のバックナンバーが入っています。その他の雑誌は閉架で、これはカウンターに請求して下さい。

直接みられる雑誌を知るためには「展示雑誌名カード」があります。誌名のアルファベットで引いて、カードの左上の赤い字で所在を知ることができます。例えば 5-2 とあれば、5 番目の書架の上から 2 段目にあるという意味です。雑誌カード目録ボックスの下段にありますので利用して下さい。来年度は継続購入雑誌目録で展示と閉架の別がわかるよう工夫したいと思っています。

(雑誌係)

P. 6 より続く



訂正

前々号・前号の記事を次のように訂正いたします。

(vol. 14. No. 1)	誤	正
P. 2 右表右端	篇委目録	— 蔵書目録
〃 右側下から 3 行目	摸索	— 検索
P. 8 右側下から 7 行目	A 郡 B 郡 C 郡	→ A 群 B 群 C 群

(vol. 14. No. 2)

P. 6 右側上から 7 行目「中心になって」の後に次の文章が入ります。

『電算化が進行しつつある。そのような状況に対応できる体制づくりが必要であろう。現在工学部では、電算室が中心になって』

館内だより

(54年 6月13日～10月15日)

▶ 研修・分科会等 ◀

6.13 理工学分科会 6.16 書誌学分科会 6.22 三田図書館情報学会、逐次刊行物分科会 7.9 目録分

科会 7.18 分類分科会 7.20 逐次刊行物分科会 7.25-27 文化庁著作権講習会 9.2-3 書誌作成分科会 9.3-4 閲覧奉仕分科会 9.5 図書館館内研修(於朝霞分館) 9.10 目録分科会 9.13-14 文部省著作権講習会 9.17-22 文部省主催昭和54年度漢籍担当職員講習会 9.19 分類分科会 9.21 逐次刊行物分科会 9.22 書誌学分科会 9.28 三田図書館情報学会 10.2-5 日本私立大学連盟一般研修図書館関係 10.4 書誌作成分科会 10.8 目録分科会

▶ 館内・外語会議 ◀

6.15 仏教図書館協会総会(於愛知学院大) 6.18 私立大学図書館協会東地区部会・同研究会(於浦水会館) 6.20 白山連絡会 6.21 工学部分館運営委員会 6.25 工学部分館連絡会 7.4 図書館運営委員会 7.23 日本図書館協会大学図書館部会(於白山図書館) 7.26-28 私立大学図書館協会総大会(於麗沢大学) 9.19 大学図書館国際連絡委員会(於東京大学総合図書館) 10.4 工学部分館連絡会 10.5 仏教図書館協会仏教図書共通分類表改訂検討会(於駒沢大) 10.9 白山連絡会

▶ その他 ◀

視聴覚室主催映画会 作品: 柳田国男と遠野物語、栄光への5000キロ (6.20)

朝霞分館視聴覚アワー スライドアワー: NHK 未来への遺産より、埋もれた王国—アメリカ編 (6.29)

16% 映写: 音楽映画「ビバルディ・四季」(9.28)

会計監査(工学部分館 6.15)

※白山図書館では、故亀山義亮名誉教授蔵書(主に教育学関係)及び故木島平治郎氏蔵書(主に英文学関係)の寄贈をそれぞれ 7月9日と16日に受けました。

※東洋大学附属図書館規則が 7月4日付で改正されました。主な改正点等詳しい解説は次号で。

編集後記

★前号(14巻2号)より、編集委員が、新しくなりました。下の様な構成メンバーです。

白山より 大間賢二, 中村智津子, 小笠原玲子, 島村悦子

川越分館より 藤野久美子

朝霞分館より 平出洋子

★皆さんの御期待に一步でも近づける様にならうとがんばって作りますので、よろしくお願ひいたします。

★コスモスを読む人って、どんな記事を楽しんで見ているのですか。とかく、図書館側からの一方的伝達手段としか思われていない様ですね。「びあ」や「angle」がもてはやされる当世、何か得する様な内容じゃないと読む意欲が起きない人が多いと聞きます。少しでも、皆さんの大学生活に役立つ内容にしていきたいと考えています。